

詩都浜松構想

尾内 甲太郎

30年後、2050年代に浜松が詩都になっているために、浜松市で起こっていた方がいいできごとの案を下記に列挙して、詩都浜松構想とする。

記

- 浜松三詩型大賞創設（刊行された詩集・句集・歌集に対して。個人出版を含む）
- 浜松三詩型新人賞創設（詩1篇・俳句30句・短歌20首に対して）
- 浜松詩学校創立（教科は「自由詩実作」「短歌実作」「俳句実作」「西洋詩史」「東洋詩史」「日本詩史」「川柳」「連句」「現代思想」「政治」「演劇」「作曲」「芸術」「映像制作」「情報」など。年間受講者数60人）
- 浜松市内の小中学校への詩人・歌人・俳人派遣、特別授業をする。
- 北区引佐地区や天竜区などの中山間部にある空き家への詩人・歌人・俳人移住計画。半詩半農生活をするなかで詩藻を養う。2年に一度出版支援あり。
- ポエット・イン・レジデンス受入（半年間に3名受入、展示会・朗読会など成果発表を義務付ける） ※ 空き家問題
- 詩歌専門書店の開業支援。
- はままつポエトリーマーケット（詩歌作品の即売展示会）年一回開催。
- はままつポエトリーリーディング世界大会競技部門&表現部門開催（日琉韓朝台中越比馬伯を中心に9ヵ国以上参加）
- 農林水産業や工業の宣伝部門と連携。例えば三ヶ日みかん俳句大会、遠州織物短歌大会、加速する現代詩大会など。
- 浜松市内の芸術家・クリエイターとの連携。
- 静岡文化芸術大学文化政策学部との連携。
- 大賞及び新人賞表彰式やポエトリーマーケットやポエトリーリーディング世界大会や朗読会や各種大会は「浜松詩月間」（たとえば9月）に集中して開催する。月間はイベント企画者を公募する。
- 必要に応じて組織をつくるときは副代表を置き、代表は詩人たる市民全員とする。

以上